

西国三十三番		本尊	御詠歌	✓
一番	那智山青岸渡寺	如意輪観世音菩薩	補陀洛や 岸うつ波は 三熊野の 那智のお山に ひびく滝津瀬	
二番	紀三井山金剛宝寺	十一面観世音菩薩	古郷（ふるさと）を はるばるここに 紀三井寺（きみいでら） 花の都も 近くなるらん	
三番	粉河寺	千手観世音菩薩	父母の 恵みも深き 粉河寺（こかわでら） ほとけの誓ひ 頼母（たのも）しの身や	
四番	槇尾山施福寺	千手観世音菩薩	深山路（みやまじ）や ひばら松原 わけ行けば 槇（まき）の尾寺に 駒ぞいさめる	
五番	葛井寺	千手観世音菩薩	まいるより 頼みをかくる 葛井寺（ふじいでら） 花のうてなに 紫の雲	
六番	壺阪山南法華寺	千手観世音菩薩	岩をたて 水をたたえて 壺阪（つぼさか）の 庭の砂（いさご）も 浄土なるらん	
七番	龍蓋寺（岡寺）	如意輪観世音菩薩	けさ見れば 露（つゆ）岡寺の 庭の苔 さながら瑠璃（るり）の 光なりけり	
八番	長谷寺	十一面観世音菩薩	いくたびも 参る心は 初瀬寺（はつせでら） 山もちかひも 深き谷川	
九番	南円堂興福寺	不空羂索観世音菩薩	春の日は 南円堂に かがやきて 三笠の山に 晴るるうすぐも	
十番	三室戸寺	千手観世音菩薩	夜もすがら 月を三室戸 わけゆけば 宇治の川瀬に 立つは白波	
十一番	上醍醐寺	准胝観世音菩薩	逆縁も もらさで救ふ 願なれば 准胝堂は 頼母しきかな	
十二番	岩間山正法寺	千手観世音菩薩	水上は いづくなるらん 岩間寺（いわまでら） 岸うつ波は 松風の音	
十三番	石山寺	如意輪観世音菩薩	後の世を 願ふ心は かるくとも 仏の誓ひ おもき石山	
十四番	円城寺（三井寺）	如意輪観世音菩薩	いで入（い）るや 波間の月は 三井寺の 鐘のひびきに あくる湖	
十五番	観音寺	十一面観世音菩薩	昔より 立つともしらぬ 今熊野（いまぐまの） 仏の誓ひ あらたなりけり	
十六番	清水寺	千手観世音菩薩	松風や 音羽（おとわ）の滝の 清水（きよみず）を むすぶ心は 涼しかるらん	
十七番	六波羅蜜寺	十一面観世音菩薩	重くとも 五つの罪は よもあらじ 六波羅堂（ろくはらどう）へ 参る身なれば	

十八番	頂法寺 (六角堂)	如意輪観世音菩薩	わが思ふ 心のうちは 六つの角 ただ円かれと 祈るなりけり	
十九番	行願寺 (革堂)	千手観世音菩薩	花を見て いまは望みも 革堂 (こうどう) の 庭の千草 (ちぐさ) も 盛りなるらん	
二十番	善峰寺	千手観世音菩薩	野をもすぎ 山路に向ふ 雨のそら 善峯 (よしみね) よりも 晴るる夕立	
二十一番	穴太寺	聖観世音菩薩	「かかる世に 生 (むま) れあふ身の あな憂 (う) やと 思はで頼め 十声一声	
二十二番	総持寺	千手観世音菩薩	おしなべて おいもわかきも 総持寺 (そうぢじ) の 仏の誓ひ 頼まぬはなし	
二十三番	勝尾寺	千手観世音菩薩	重くとも 罪にはのりの 勝尾寺 (かちおでら) 仏を頼む 身こそやすけれ	
二十四番	中山寺	十一面観世音菩薩	野をもすぎ 里をもゆきて 中山 (なかやま) の 寺へ参るは 後 (のち) の世のため	
二十五番	御嶽山清水寺	千手観世音菩薩	あはれみや 普 (あまね) き門 (かど) の 品々に なにをかなみの ここに清水	
二十六番	法華山一乗寺	聖観世音菩薩	春は花 夏は橘 (たちばな) 秋は菊 いつも妙 (たえ) なる 法 (のり) の華山	
二十七番	書寫山圓教寺	如意輪観世音菩薩	はるばると のぼれば書写の 山おろし 松のひびきも 御法 (みのり) なるらん	
二十八番	成相寺	聖観世音菩薩	波の音 松のひびきも 成相 (なりあい) の 風ふきわたす 天 (あま) の橋立	
二十九番	松尾寺	馬頭観世音菩薩	そのかみは 幾世 (いくよ) 経 (へ) ぬらん 便りをば 千歳をここに 松の尾の寺	
三十番	竹生山宝巖寺	千手観世音菩薩	月も日も 波間に浮かぶ 竹生島 舟に宝を 積むこちして	
三十一番	長命寺	十一面、千手、聖観世音菩薩	八千年 (やちとせ) や 柳に長き 命寺 (いのちでら) 運ぶ歩みの かざしなるらん	
三十二番	観音正寺	千手観世音菩薩	あなとうと 導きたまへ 観音寺 (かんおんじ) 遠き国より 運ぶ歩みを	
三十三番	谷汲山華巖寺	十一面観世音菩薩	今までは 親と頼みし 笈摺 (おいずる) を 脱 (ぬぎ) て納むる 美濃 (みの) の谷汲」	